

注目される

トゲナシニセアカシヤ

……国土保全と草地改良の立場から……

雪印種苗株式会社

わが国の農耕地面積は国土のわずかに一割五分に過ぎず、残りの八割余は山野、河川であつて、食糧生産資源としての利用度ははなはだ乏しい。山林は濫伐と山火のため山肌を露呈し、降雨毎に土砂を洗い流している。ために河川は泥流をたたえ年々河床を高め、堤防の高さと面積はこれに伴なつて増大している。また百四十二万町歩の牧野は、無計画な放牧や推取的な刈草の連続によつて生産力は極度に低下している。さらに十五万町歩の海岸砂丘地帯は次第に耕地を蝕害しつゝあつて、狭隘な国土に人口は膨脹して社会不安の因をなしているが、食糧の自給なくして平和国家を望み得ないのがわが国の現状であつて、草地農業の確立とか土壌の流亡防止などの国土保全策が大きくクローズアップされることになつたのである。

科に属する樹木を植栽して土地を沃化し、併せて飼料を生産する方法が最も科学的であり経済的であるとの結論に到達して、飼肥料木とか救用樹と呼ばれて研究され、政府もこれら樹木の植栽を奨励されることになつた次第である。

さて、この飼肥料木と言われているものにどんなものがあるか。その特性はどうか、という点について少しく解説しよう。

山地、傾斜地、草地用向き
 荳科に属するもの
 トゲナシニセアカシヤ、イタチハギ、ハギ類、エニシダ。
 低湿地用向き
 はんのき属
 ハンノキ、ヤマハンノキ。

右のうちで、広く注目され応用面の広いものはトゲナシニセアカシヤとイタチハギであるが、今回はトゲナシニセアカシヤについて記したいと思う。

一 青島トゲナシニセアカシヤ（青島種）
 原産地は北アメリカで、大正四年白沢博士により青島から移入されたので青島種と

称せられる。札幌の街路樹として有名なアカシヤと似ているが、苗木時代一二年くらいでは微細なトゲができることはあつても、生長するにつれてトゲがなくなり扱い易い。生長力が極めて旺盛で、土地を選ばず、二十年生の松がステッキくらいしか伸びない瘠地でも、アカシヤは立派に生長して薪炭材になつた例もあり、生長は実に早い。開拓地における数年の実例でも、松とアカシヤと同時に混植したものの比較であ

して優れたものである。

牧野の庇蔭樹として有用であり、肥料木として反当四十〜七十本栽植すれば、下草はアカシヤの遊離窒素固定の恩恵をうけてよく繁茂し、採草量が著しく増加する。また萌芽が旺盛であるから、地上二〜三尺のところまで剪定し、枝条を沢山出させて、伸びた枝条の基部に数芽残して、いわゆる更新剪定式に枝葉を切りとり、飼料にすることも有効である。この木は乾燥にも湿気にもよく耐えるが、日当りのよい場所が最適である。

二 英國トゲナシニセアカシヤ（英國種）
 本種も白沢博士によつて移入されたもので、博士が英國から持ち帰り、農林省林業試験場に植えられた原木がある。樹型がバラソルを抜けたようであるから、一名バラソルアカシヤとも言ふ。青島種と同様トゲはなく、半喬木性で枝は細く簇生し、葉は小型であるが、数は多いので採草量は青島種に勝る。性強健で、砂地瘠地にもよく生長するので、海岸の砂防などには好適する。青島種より春は十日余早く萌芽し、秋の落葉もまた十日前後遅いので、飼料として利用期間が長い。樹高が高くないから庭園の風



青島トゲナシニセアカシヤ
（農林省林業試験場目黒苗圃）